

2018年 10月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	106.5
阪神梅田本店	93.0
支店計	106.9
全店計	104.9

※ 阪神梅田本店が建て替え工事のために、売場面積が前年に比べて約2割減少しており、それを除くと、売上高前年比は、106.7%となります。

○ 全店の概況

- ・ 気温の低下に伴い、秋ファッションの実需ニーズと冬物の先行購買が活発化し、阪急本店、阪急メッセ東京、博多阪急などの都心店は、海外ブランドを中心に動きがよく、日曜日1日減を補い、104.9%と好調に推移。
- ・ 阪神梅田本店は、第Ⅰ期棟オープン後、面積は2割減ながら、食品が前年実績をクリアするなど、想定を上回るペースで好調に推移。話題の「パンワールド」や「スナックパーク」、「高級ハンバーガーレストラン」等が継続的に30～40代の新客獲得に寄与。
- ・ 支店は12店舗中、11店舗が前年を上回るなど都心店はファッション、郊外店は食料品を中心に好調に推移。

○ 阪急本店の概況 ※売上高が23ヶ月連続で前年実績を上回る。

- ・ 季節実感型や気温低下に伴う防寒、冬物の先行購買など多様なファッションニーズを取り込めた婦人服や、高額なジュエリーや時計が好調なラグジュアリー等婦人ファッション(108%)が好調に推移。
- ・ インバウンドは、国慶節が前年比1日減の影響もあり、上旬は前年比約1割減と苦戦したが、中旬から下旬にかけて来店も増え、前年を上回るまでに回復し、月トータルでは前年並み。
- ・ 100万円以上の高額品(103%)は、ラグジュアリーブランドのジュエリーや時計が、国内顧客を中心に好調な動き。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2017年度						2018年度						
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
阪急本店	110.1	112.6	106.5	107.3	108.4	109.6	110.8	107.8	104.5	100.0	108.7	100.6	106.5
阪神梅田本店	100.2	100.6	100.4	98.5	98.5	99.4	106.8	83.4	115.1	87.6	96.1	84.0	93.0
支店計	95.3	100.5	98.4	96.1	97.7	100.3	98.5	93.3	98.3	89.5	107.0	105.7	106.9
全社計	103.6	106.9	103.0	102.1	103.4	105.1	106.0	99.5	103.6	94.8	106.6	99.8	104.9
既存店計※	105.5	108.8	104.9	104.3	105.3	107.0	108.0	102.3	106.4	98.0			

※ 既存店計は、2017年7月末に閉店した堺 北花田阪急を除く

※阪神梅田本店除く全店計

108.0	102.4	106.7
速報値		

■ 食品事業

イズミヤ	売上高前年比(%)
全社計	94.1

阪急オアシス	売上高前年比(%)
全社計	97.8

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

＜本件に関するお問合せ先＞
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 広報室 TEL:06-6367-3181